




えちな

サキュバスお姉さん と 快樂セックス

フルカラーCG集
基本CG13枚
本編72枚
文字無し72枚
合計144枚
制作 むらとう

A photograph of a bedroom. In the foreground, there is a bed with white linens and two pillows. To the left, there is a desk with a chair. In the background, there is a large wooden wardrobe. The room is lit with warm, indoor lighting.

いつものような金曜日、
僕は会社から帰宅したあと家でくつろいでいる。

今週は忙しかったが、やっと休める！
と思いつつ、週末はずっと家にいる予定しかないし、
特に楽しむこともない…。

はあ…何か気分がスッキリするようなことないかな。
平凡な毎日にモヤモヤする気持ちと裏腹に、
無性に日常から『解放されたい』と性欲だけがつのる。

『解放されたい』だなんて。
美味しそうに言うわね♡



突然、謎の音が僕の脳に響く。

誰だ？女性？どうして……。
不審な声に、慎重になる。

怖がらないで……
あなたの放つ香りが
とてつもなく美味しそうで……
痛いことはしないわ。

すると、凄まじく露出が高い格好のお姉さんが目の前に現れた。
悪魔…のコスプレか？
エロ過ぎて、目のやり場に困る。

ふふっ、目をそらしちゃって
可愛いのね。
淫魔…って知ってるかしら。

さ、サキユバスとかの…？

そうよ、私はサキユバス。
あなたの精気、ほんとうに濃厚で…
いただけないかしら？



サキュバスって…あんなの漫画とかアニメの話だろう、
これは夢か？

それにしても、お姉さんはごちそうを見るような目で僕を見ている…。
嬉しような不安なようなゾクゾクが、なぜか僕を刺激する。



でも、いただくってどういう…



こういうことよ...♡好きでしょう♡

お姉さんは僕を押し倒し、やさしく股間に触れる。
重厚感のある暖かいおっぱいの感触を横に感じながら、
股間に集中する優しい手触りに、反応せずにはいられない...

好きです...

ドガッ

ナオ
ナオ

ふふっ

お姉さんは僕の返事に、嬉しそうに笑顔で答える。

じゃあ早速…気持ちよくしてあげるわ♡

スッ…

ニクッ

そういうと、彼女はゆっくりとズボンと下着をおろした。僕のチンコは既に熱くなり、興奮を隠しきれずにいた。





はぁぁ…本当に美味しそうっ♡
早く食べちゃいたいわ

お姉さんはゆっくりと手を動かした。

…っ、触り方エロい…

んふっ…まだまだだよ、
覚悟してなさい♡

徐々に早さが増す手の動きに、されるがままに気持ちよくなっていく。

息が荒くなってきたわね、気持ちいいかしら？

しゅっ、しゅっ

気持ちいいっ…
そんなに早く動かされたら…っ！

動かされたら、なあに？

余裕のある彼女は僕の反応をみて楽しんでいる…。





おちんぽはもっと早くしてって言ってるわ♡
もっとほしいのねっ♡

丁度気持ちよく上下する彼女の手の手は悪魔的に完璧なリズムで動いている。

ちゅっ
ぬちゅっ
ちゅっ
ぬちゅっ
ぐわっ

はああん…
もう本当よだがでちゃうっ♡
私も我慢できないわっ

彼女は床に跪き、僕の股の間に顔をのぞかせる。

思いきりチンコの臭いがかげると、少し恥ずかしい…
けどそんな変態なお姉さんにぞられる。

んあっほんっといいにおい♡♡
頭にガンガン響くわっ♡

汗臭くない…?

汗臭くて最高よ…?んん♡♡
恥ずかしがってるところも可愛いのね♡

す

ん

ん



僕のすべてに興奮してくれるお姉さんにつられて、僕のすべての感覚も敏感になっていく...

これ、全部吸い取っちゃうわね...

いただきまあああすうっ♡♡♡♡♡んふうっ♡

はまっ

彼女は思い切り僕のチンコにしゃぶりついた。





彼女の暖かい口内がジーンとチンコから伝わってくる...。
舌の動くもまんべんなく、僕の弱びところを刺激する。

んんふう...おいひい♡♡
ちうううっじゆるうっ♡

きもひいっ...これ、ふきい?!

じゅんじゅん

じゅん



おひんほ、おいひいっ♡おいひいっ♡♡♡

あぁっ…まじっ、まぢまぢっ…♡
イきまじっ…はぁっ

さらにスピードが速くなる。

んっ

ぽんぽんっ

ズズズズズズズズ

ズズズズズズツツ…じゅりゅりゅっ
ズツズズズツツツ♡♡♡

あぁっ…まじっ



サキュバスのお姉さんが来てから数日がたった。

僕はいつも通りに会社で働く日々を過ごしてやる…

あの日は夢か現実かわからなくなるくらいに気持ちが良い日だったなあ
またあのお姉さんは来てくれるのだろうか。

あの絶妙な解放感と妖艶な魅力をもっと一度感じれたらいいな
…と思いつつ、今日も忙しい仕事をこなさなければ！
もうすぐ昼食の時間だし、頑張ろう。

なにか突然、股間に違和感を感じるな...
服が机の下に引っ掛かっているのか？
奇妙な感覚を不思議に思い、デスクを確認する。

そおー

こんにちはあ♡ばれちゃった？

!!

デスクの下には、あのサキユバスのお姉さんが隠れていた。

ビクッ

なにしてるんですか!!
こ、こんなところで!!

僕は極力他の人に気づかれぬように、小声で問いかける。

ふふ...いいじゃない、ちょっとお遊びしたいと思ったのよ♡



大丈夫、心配はいらないわ：私の姿はあなたにしか見えないわよ。

そ、それでも…

僕は、はれるまじと仕事を続けるが、気が散って集中できなう。

こんな状況だぞ、誰が我慢できるか！
そう思っている隙に、お姉さんはゆっくりと手を伸ばし、
ズボンの上から僕のチンコをなぞる。

ちゃんとお仕事してて偉いわね♡
ご褒美をあげたくなっちゃうわ…

ちょっと、あまり刺激しないで…。

あら、そう？そうは見えないわよ…
ふふ、もっとしてほしいのでしょうか？

そろろ…

ナイス
ナイス
ナイス

それはあなたが…触るからで…っ

ほら、あなたのおちんぼだっってこんなに喜んでるわ♡

段々と熱くなる股間に気をとりながら、全然集中できなぞ…。
面白がっているのか、お遊ばせはなさげでやあしてら手づかみは僕のチンポを撫でる。

僕らはトイレへ到着すると、即座に個室へ駆け込んだ。

あれはズルいって…

んふっ、邪魔しちゃってごめんなさいね♡
あなたの精気が恋しくて、我慢できなかったのよ。

ふ、ふ、ふ

くはぁ…♡

そういひながら、誘うように彼女の美しい身体を見せつけてくる。

ガタッ

はやくちようだあい♡♡
もうココがうずうずしてるのっ

スツ

ゲゲゲ...
ホロッ

あらわになった彼女のマンコは既に準備万端...
でも、会社のトイレにするなんて...
と緊張しながらも、僕のチンコも準備万端だ。



入れるよ…っ、はあ

んああはあ、んっ♡♡
これっ♡ほしかったのお♡

マンコっ…きっ…きもちいご…っ

す…ふ…ふ…ふ…っ

ああっ、いいわっ…
もっとおっきくなってる♡♡♡
おねがいつ、ぐちゅぐちゅしてえ？

さっきの余裕とは裏腹に、おねだりをする姿が最高でエロい。

はあ、はあ、はあ



性欲を煽られるままに、腰を動かす。

はあっ…僕の、そんなにおいしい？

おいしいっ♡きもちいいわっ、
やめないで…んんっ♡

はあっ、
はあっ、

ふんっ

ぬんっ

ぬんっ
ぬんっ

んんっ

ふっ…下のお口、ぎゅーっしてしてる…
エロすきだよ…

んほおっ♡もっどっ！きもちいいのっ…ほしっ♡



ああ…へっ…はあっ…んんおいひい♡
のーこーであまあい…♡ごちぞおさま…♡♡♡

ふっ

ふっ

ドクドク

んっ…うっ…うっ…!

んっ

んむっ、おっ…おっ、おかおにちよおだっ、い♡♡

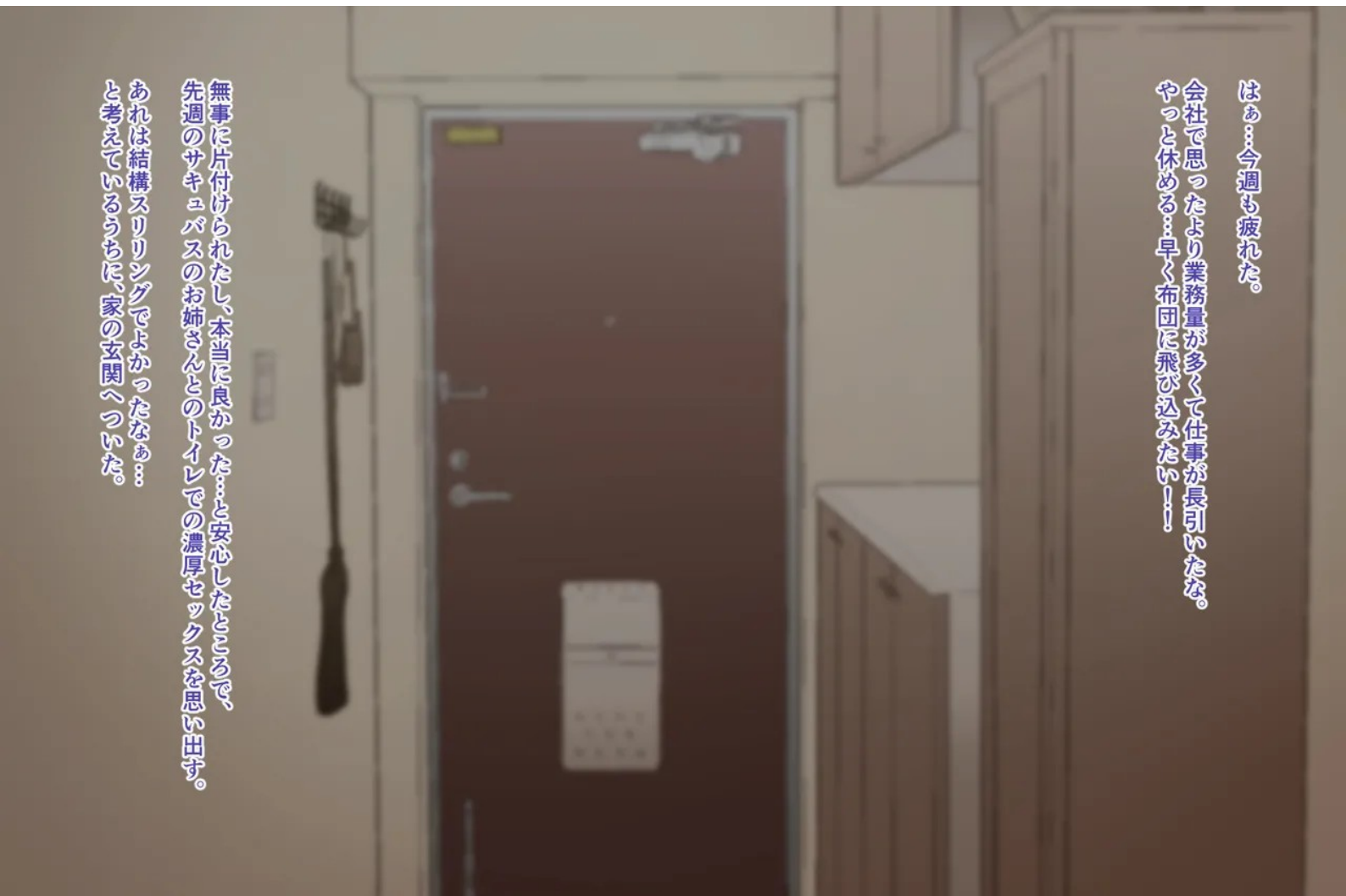
ドクドク

んっ♡

はあ…今週も疲れた。

会社で思ったより業務量が多くて仕事が長引いたな。
やっと休める…早く布団に飛び込みたい！！

無事に片付けられたし、本当に良かった…と安心したところで、
先週のサキュバスのお姉さんとのトイレでの濃厚セックスを思い出す。
あれは結構スリリングでよかったなあ…
と考えているうちに、家の玄関へついた。



玄関ドアをあけると、そこにはサキュバスのお姉さんが待っていた。

あ…!

ふふっ、おかえりなさい…お仕事お疲れさまでした♡



は、はい…ありがとうございます…ごちそうです…!

また今日もエロい…
疲れているはずなのに、僕の中でうずくものあった。

ガ
キ
ャ

私…すっごくおしくお腹すいてたのよ…？
でも忙しそうだったから、待ってたわ。
焦らした方が、もっとおいしく感じるものね…

ははっ、面白い…

がっ

んん

がっ
がっ

すると、外の音が聞こえてきた。



ごめん!!
今日部屋汚いから外で待ってて、ほんとごめん!

大丈夫だよ。ここで待ってればいい?

うん、すぐ持ってくるね。



隣の部屋の住人たちの声が玄関に響く。

そうだよな、ここは壁より薄いドア一枚しか間がない…。
ここでセックスをしたら…聞こえてしまうかな。聞こえないかな…。

そんなことを考えながらお姉さんを見ると、彼女も同じ目をしていた。
聞こえてしまうかな。聞こえないかな。聞かれちゃうか…？

ゴクッ…

ニヤァ…

僕らはお互い考えていることを理解し、笑みを交わした。



もうペコペコよ…いただいでいいかしら…

彼女は徐々に僕に近づいてきた。
恐ろしいほどの色気に僕は吸い込まれるように魅了される。

すいっ

いや、待って…今日は先に僕がいただくね…



僕は彼女を玄関ドアに押しつけ、胸に手を伸ばす。

ふふふふふふふふふふ

ふふ…今日は積極的なのね。
そういうのも好きだわ…♡
ゾクゾクしちゃう

本当、身体綺麗だね…
やわらかいし、エロい…。

僕が触れるたびに、嬉しそうに身体がびくん、びくと動いている。

ビクビク





そう言いながら、僕は彼女の乳首をゆっくりと舐める。

「こはとう...? 好きかな。」

グキョッ

グキョッ

ナノも...

...♡
好きよ...もっといじってちょうだい...
そんな、焦らすことないわ...

今すぐ舐めまわしたい。そんな衝動を抑えながら、指の速度を上げる。



んんっ♡や、やみしらの…っ、っ、っ、っ…ささ…ささ…

もっとほしいと
いった割には乳首弱いね？

もう…いいじゃないっ…んう
サキユバスだものしょうがないじゃないっ

ふっ、かわいい…。乳首こんなになってるよ？
もっと触ってほしいって言ってる。

サキユバスは攻めることが多いのか、少し恥ずかしそうだな…。

かゆかゆかゆかゆ
どろろ M

サキユバス
んんっ♡

きゅっ…まんこ、締め付けられて…っ、やばいっ…

ほちゅっ
ほちゅっ

んふっ…っ♡ああっ、きもちいっ
…えっちな音…あんっ、沢山出てるっ

ふっ…これじゃ外に
聞こえちゃうね…っ、うっ

はぁっ





ンンッ...♡はあ...はあ...
ふふっ、私もっとソクソクしたいわぁ♡
もっともっと...っ...じゅぶぶじゅぶしてえっ...っ

ほ
ちゅん
ん

ほ
ちゅん
ん

ねだる声に、僕のチンロはさらに反応する。
はぁっ

すると、ちようど外の音が再び聞こえてきた。

ぐりっ...

おまたせ〜!!
ごめん待たせちゃって
...あとよかったらこれ食べてね!

いいよ、ありがとね。なにこれ
...うわっ、美味しそう!

どうやら女関で会話をしている。

ああ...隣の部屋ではこんなドロドロしているなんて考えてもなぞだっただけだな...



僕は思い切り腰をぐっぐっぐりぐりぐりと奥に届くように押し付ける。

ぽんっ
ぽんっ
ぽんっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぽんっ

あああ……っ……
き……きもちいところ……あたってるっ……わ……
ぐりゅぐりゅ、すき……い……う、んんんっっ♡♡♡
イグッイグッ……イっちやうううう♡♡♡

う……やばいつ、もうダメ
マンコが……ギュー……っしてしめてきて……っ
イクっっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ



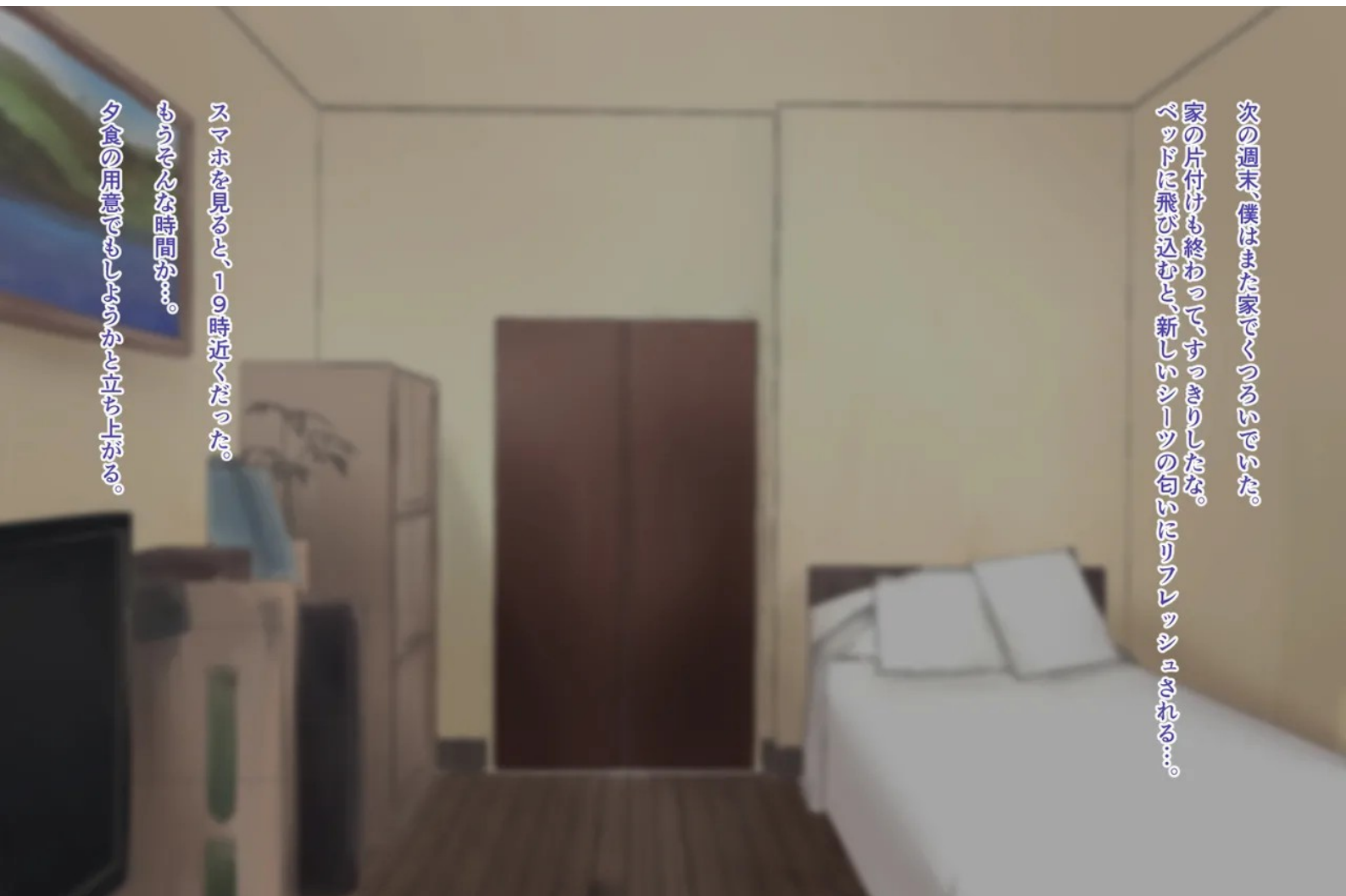
次の週末、僕はまた家でくつろいでいた。

家の片付けも終わって、すっきりしたな。
ベッドに飛び込むと、新しいシーツの匂いにリフレッシュされる…。

スマホを見ると、19時近くだった。

もうそんな時間か…。

夕食の用意でもしようかと立ち上がる。



何か気配がしたので、振り向くとサキュバスのお姉さんがいた。

また来ちゃったわ♡今夜は暇かしら？

相変わらず、えっろいムチムチボディでそそる…。



い、一応…。
今から夕食でもしようかなって…。

あら…私もいただきたいわぁ

…あなたを♡



おねがぁい♡♡

と言いながら、彼女はそーっと手を僕の股間に伸ばし、やさしく触れる。

あらぁ♡夕食もいいけど、おちんぼはセックスの準備ができてるようだわ？

そぉー！

ふふっ♡

っっ…しょうがないよ…
そんな触り方したら誰でもそうなるって…っ

ふふっ♡本当素直でかわいらしいわ…
そういうところ、ますます食べちゃいたくなるのよ。



もう夕食なんて後でいいに決まってる…。

焦らすように触れるか触れないかくらいのもので、優しく指をつたわせられるのと裏腹に、僕のチンコはぐんぐん勃起している。

すっすっ..

ほら、どんどん固くなっていくわ…♡

ニッ

…はあっ

今日は疲れてないし…沢山できますね…



最っ高じゃない…私も熱くなってきたわ…♡♡

彼女は僕のパンツを脱がし、
やわらかく厚みのあるの胸で僕のチンコを包んだ。

「キゅん、キゅん、キゅん」

「ん、ん、ん」

タラ——つと垂れる唾液の熱さを、直に感じる。



ぬるぬると、彼女は胸を上下に揺らす。

あったかい…やわらかくて、いいよ…っ

ふふ…よかったわ。
そうね、あなたのおちんぼも…
ドクンドクンしてて、暖かいわね…♡



ああ…チンコがおっぱいに挟まれて、気持ちいいっ!!
こんな巨乳にパイズリされるなんて、ほんとに僕はラッキーな奴だ…。

どう?気持ちいいでしょう…?

あなた、顔がだんだんとろけてきているわ…
おいしそうでたまらない…♡



ンッ…はあ…っ、くっ…

うふふ♡おちんぽこんなにビクビクさせちゃって…
そんなにおっぱいセックス好きなのね??

かわいい声だしちゃって…
でもまだイってはだめよ♡
我慢してちょうだい♡

というど、お姉さんはさらに激しく動かす。

ぬちゅっ、ぬりゅぬりゅっ…ばちゅんっにちゅっ…。
エロい音が部屋中に響き渡る。

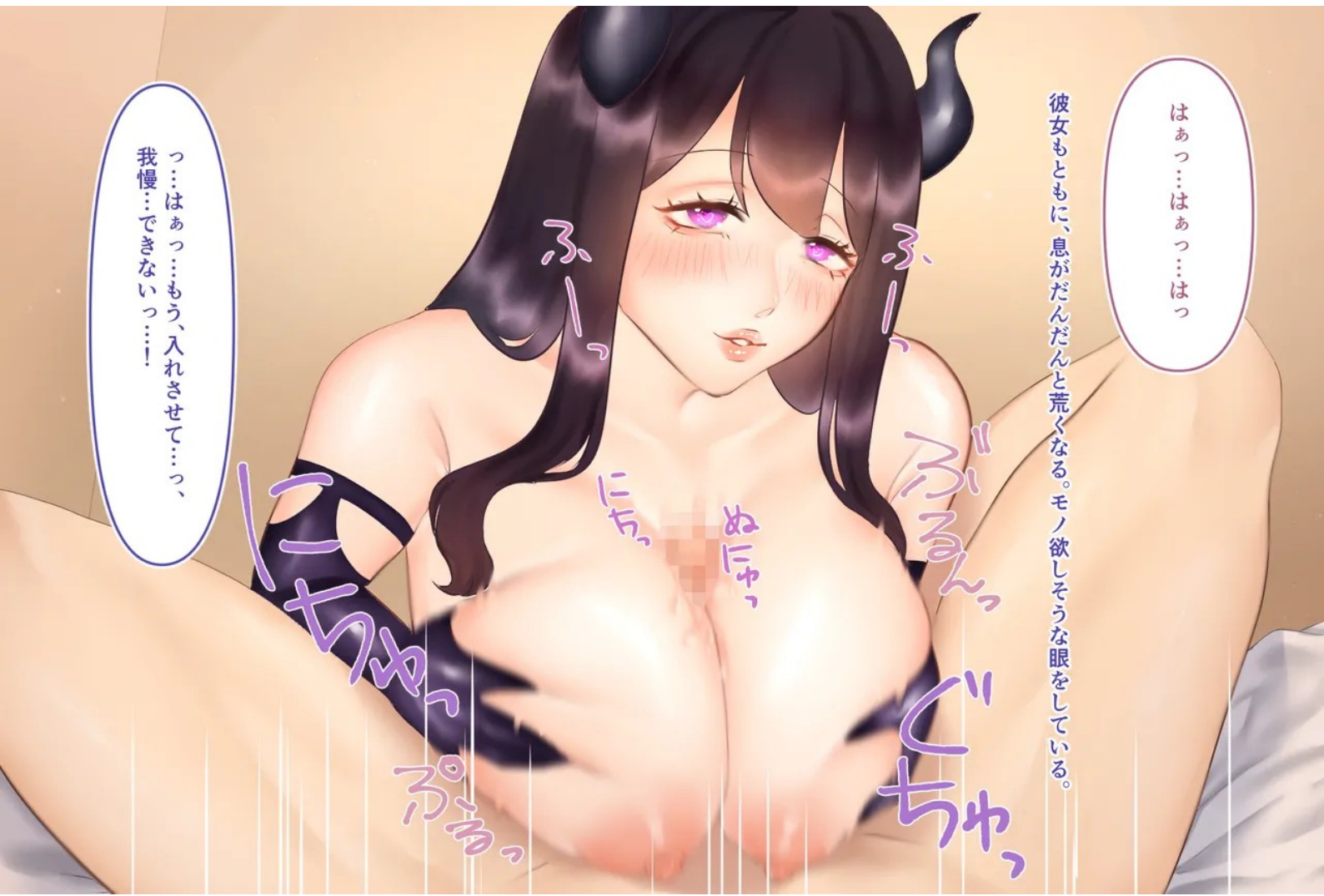
はあ…

んんん

ぬちゅ ばちゅん

おちんぽ

ぬちゅ



はあっ...はあっ...はっ

彼女もともに、息がだんだんと荒くなる。モノ欲しそうな眼をしている。

っ...はあっ...もう、入れさせて...っ、
我慢...できないっ...!

ふーっ
ふーっ
にゅにゅ
にゅにゅ
ぐにゅ
ぐにゅ
ぐにゅ

僕は彼女を押し倒し、チンコを押し込む。

あああっ…い、いつきに
…はいつてくるわあっ♡♡♡
んんんっ…ふうん♡♡♡

あっ…はあっ…
おまんこ…ぐっしょぐしょに濡れてるね…
チンコ早く入れてほしかったんでしょ…?
僕も、早く入れたたくてしようがなかった…っ

カ
ツ
ツ

カ
ツ
ツ

僕は容赦なく彼女のマンコを突いた。
どちゅどちゅつとチンコとマンコが絡み合う音が脳に響く。

指先に感じる触感や身体を伝う体温、
お姉さんの誘惑的な香り、
全感覚がゾクゾクと興奮する。

ぬちゅっ

ぬちゅっ





んあぁっつ…はぁっつ、は、激しいっ♡
ケモノみたいに腰振ってるの…そそるわ…♡

ふっ…っ、誰のせいで、
だよっ…はぁっ…

溢れる吐息、色気のある眼差し、
すべてがエロい彼女にますます引き込まれそうになる。

んふふ♡あぁあっ
そこっ、すぎっ♡

とちゅっ
とちゅっ
お

ぎゅぎゅぎゅぎゅぎゅと閉まる膣を強く感じる。

はあ…っ、今、締まったっ…きつ…

んふっ♡心臓…ドクンドクンしてるのっ…
はあっ、聞こえるわ♡かわいいのね…っ

ぬゅ
ちゅ

ドクンドクン

ぬゅ
ちゅ





そっち「そっ…」

彼女に煽られ、僕は腰をさらに激しく、奥まで、押し込む。

おっ、おっ、おっ

んああああっ♡♡♡♡♡

はあっ…これ、きもちいらてしょ…

きもちっ♡♡♡♡んあ…っ

彼女は無言で悶えている。

ズッ

ズッ



ギユウウウウウと搾り取られそうになるのに耐えながら、腰を動かし続ける。

いっほ

ズクン
ズクン

ギョ
ギョ
ギョ

あーん

ズクン
ズクン

はあっ……くっ、んんっ……
やばいっ、めっちゃ締まる……

ああっ、これっ♡いいわっ♡
おっ……奥までっ、おちんぼ……っん
届いてりゅっ♡♡♡♡
き、きもち……っすぞっ……♡♡♡♡

バック…大好きよ♡

彼女は体制を変え、マンコを差し出す。

んんんっ♡でも、ま…まだ
ビクビクしてるからあっ♡

そらは言うが、今すぐにも入れてほしそうな声して…。

マンコもとろっところに濡れてて、
色気ムンムンのおいがする…。

ふんっ。

ピクッ

ズッ

ふふ…早くう、おちんぼ入れてちょうだい♡

体制のせいとか？チンコを入れたとたん、さっきとは別のところを刺激されて、身体に電流が走ったような快感だ！

それはお姉さんと同じように、反応しているのが膣から伝わってくる。



ああ…っ、はぁ♡
ちゅきと撞うところに当たって
きゅきゅひら♡♡

んっ…ここ、でしょっ…
ビクビクしてるの
マンコから感じるっ…はぁっ

ビクッ

マンコがキュウウウと締めながら、
ビクビクと波立ってる振動が気持ちよすぎる…。
僕は思っがままにずんずんっ強く腰を打ち付ける。

ぽんっ

キョウウウウフン♡

ぽんっ



あああああつ…♡♡

きもちよすぎてっ、おかしくなりそうだわぁ♡♡♡♡♡
こゝ、すぎっ…すぎすぎっ♡ずぶずぶしてえ♡♡♡

エロ過ぎるおねだりに応えるように、腰を振るペースがだんだんと早くなる。

はあっ…音、響いてるね…
えっちな汁がどんどん溢れてるっ
ナカも…っ、きっっ…くっ

はあ、はあ、

ぴんぴん

ぴんぴん

ずんばん、

じゅぽ

じゅぽ

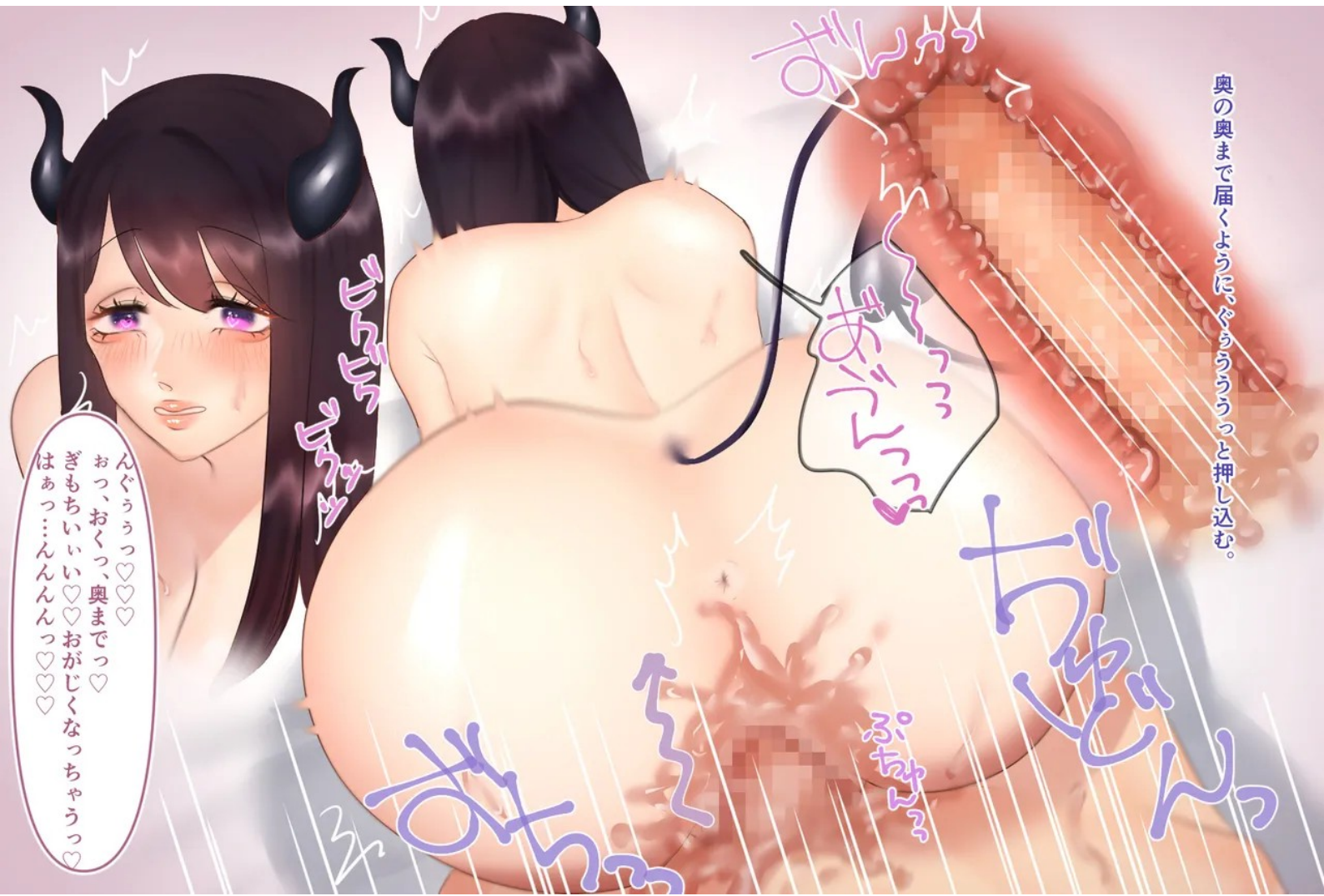
段々とのぼる快感の波を全身で感じる。

やばい……っ、マンコのナカきもちよすぎて……
もう限界きぞう……っ

おっ、ん……っ、うう♡♡♡ぎ、ぎもちらっ♡
おちんぼ、すぎっ……も、もっとな突いてっ♡♡♡

僕は思い切りチンコを押し付けました。





んぐらうっ♡♡♡
おっ、おくっ、奥までっ♡
ぎもちいい♡♡おがじくなっちやうっ♡
はあっ…んんんっ♡♡♡

カチカチカチカチ

おらん

おんか

おんか

おんか

ふん

奥の奥まで届くように、ぐらぐらぐらぐらと押し込む。



ビュッ、ビュッ、ルルルルルルツツツツ……



中に出した精子がどくどくと溢れる。
チンコをまとうぬっつとりとした生暖かさど、
ドクンドクンと波打つ鼓動が絶頂の激しさを物語っている。

はあっ...はあっ...はあっ...

んんん...はあっ
ううふうっ...♡♡♡

お姉さんは、まだビクンビクンと快感を感じてた。

はあっ

はあ

ん

びくっ

びくっ

どくどくっ

どくどくっ

びくっ

びくっ

びくっ



彼女は股をぐばあつと開いた。
二人の体液がぐつちよぐちよに混ざって、
エッチな匂いがむんとする。

はあ...はあ...

うわあ...

ぐんぐん

ほら、これ…♡
あなたのえっちな精液があふれ出ちゃってるわ♡♡
ほんっとうに美味しくて大満足だわ…。

それどころか、気に入っちゃったみたい♡♡

そう言いながら、お姉さんは妖艶な笑みを僕に向ける。

僕たち相性がいんじゃないの？
気持ちが良いすぎて、絶頂のピークがものすごかった…。



ふふ…そうね、ものすごく良いと思うわ。
あなた以外じゃ物足りなくなってしまうもの…♡

覚悟してなさい、
私ともっともっと、激しいセックスを
したくなるようにしてあげるわ…♡
また来るわね♡

僕は、サキユバスに気に入られてしまった動揺とともに、
尋常ではない期待と興奮を感じていた…。

終

































